

CORONA

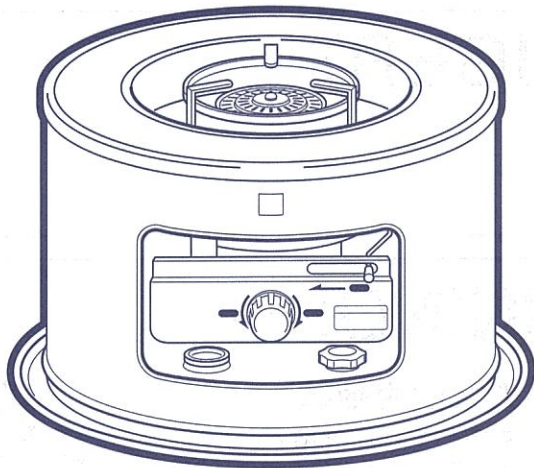
コロナ石油こんろ

取扱説明書

〈保証書付〉保証書は裏表紙に印刷されています。

型 ケーティー
式 **KT-1613**

正しく使って上手に節約



このたびは、コロナ石油こんろをお買いあげいただき、まことにありがとうございました。正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。

なお、お読みになった後もお使いになる方がいつでも見られる所に大切に保管してください。

燃料は必ず良質の灯油 (JIS 1号灯油) を使用してください。

危険



ガソリン使用禁止
使用燃料：灯油
KEROSENE ONLY

注意



変質した持ち越し灯油
使用厳禁

警告



換気必要
1時間に1~2回



衣類乾燥厳禁
寝るとき消火
給油時消火

ご注意

初使用時は油タンクに給油後、20分以上待ってから点火してください。

しんに十分灯油がしみこまないうちに点火すると、灯油の吸い上げ不足となり、燃焼筒火皿の赤熱不足が続くことがあります。

もくじ

	ページ
1 特に注意していただきたいこと (安全のために必ずお守りください) — 1~3	
* 灯油の廃棄について —————	3
2 使用する場所 —————	3
3 各部のなまえ —————	4
● 外観図 —————	4
● 構造図 —————	4
● 主な構成部品 —————	4
4 使用前の準備 —————	5~6
● 開こんと部品のセット —————	5
● 燃料 —————	5~6
● 給油 —————	6
● 点火前の準備と確認 —————	6
5 使用方法 —————	7~8
● 点火 —————	7
● 炎の調節 —————	7
● 消火 —————	8
6 対震自動消火装置 —————	9
7 日常の点検・手入れ —————	9~10
8 定期点検 —————	11
9 故障・異常の見分け方と処置方法 —————	11
10 部品交換のしかた —————	12
11 保管 (長期間使用しないとき) —————	13
12 仕様 —————	13
13 アフターサービス —————	13
14 お客様ご相談窓口一覧表 —————	14
■ 保証書 —————	裏表紙

乾電池別売 乾電池は付属されていません。乾電池 (単一形) 2個をお買い求めください。



株式会社 **コロナ**

1 特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

危険 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡、重傷を負う危険または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性または火災の可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

本文中のマークは、次の意味を表します。

		このマークは、「注意」していただく内容です。	
			このマークは、してはいけない「禁止」を表しています。
		このマークは、必ず実行していただく「指示」を表しています。	

危険 (DANGER)

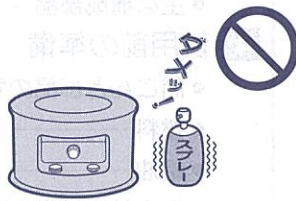
ガソリン厳禁

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。火災の原因になります。

警告 (WARNING)

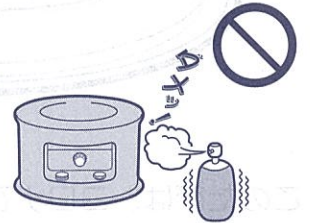
スプレー缶厳禁

スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどをこんろの上や周囲に放置しないでください。熱で缶の圧力が上がり、爆発し、危険です。



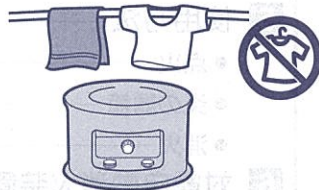
可燃性ガス使用厳禁

こんろを使用している部屋で、可燃性ガスが発生するもの(ベンジン、シンナー、ガソリン)、スプレーを使用しないでください。火災や故障の原因になります。



衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。衣類が落下して火がつき、火災の原因になります。



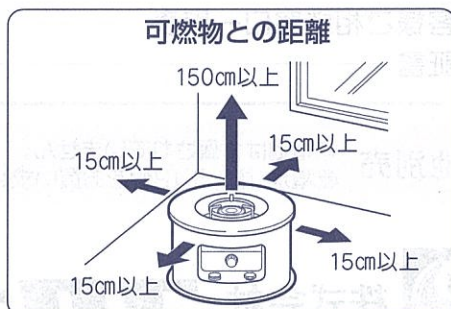
給油時消火

給油は、しんを下げ、必ず火が消えたことを確かめてからおこなってください。火災の原因になります。こぼれた灯油は、よくふきとってください。給油口ふたは確実に締めてください。



可燃物近接厳禁

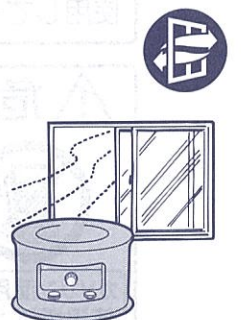
カーテン・布団や毛布など燃えやすいもののそばなどでは使用しないでください。火災の原因になります。可燃物とは図に示す距離を確保してください。



換気必要

換気せずに使用しつづけないでください。酸素が不足すると、不完全燃焼し、一酸化炭素などが発生して中毒になるおそれがあります。また、乳幼児や呼吸器疾患などのかたは体調不良になるおそれがあります。使用中は必ず1時間に1~2回(1~2分)換気して、新鮮な空気を補給してください。

換気するときは、換気扇を使用したり、窓や戸などを2カ所以上開けると効率よく換気ができます。窓の凍結、地下室など換気が十分におこなえない場所では、使用しないでください。



警告 (WARNING)

調理中はこんろから離れない

煮物など調理したまま離れないでください。食材がこげたり燃えたりして火災の原因になります。電話や来客などでこんろから離れる場合は、いったん火を消してください。



空だき厳禁

なべ、やかん、フライパンなどは、空だきしないでください。空だきすると内部に熱がこもって、火災の原因になります。



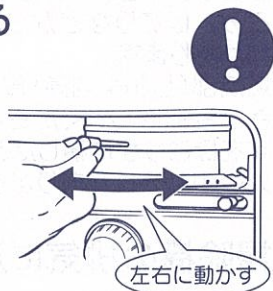
寝るとき消火

寝るときや外出するときは、必ず消火してください。また、人目の届かないところでは、使用しないでください。不完全燃焼や異常燃焼・火災のおそれがあります。消火の際は、必ずしん調節つまみが消火位置にもどり、火が消えたことを確かめてください。



燃焼筒は正しくセットする

点火用ライターやマッチで点火した場合は、燃焼筒のつまみを持って左右に2~3回動かして、しん案内筒に正しくすわっているかを確認するとともに、点火用ライターやマッチをこんろ付近や置台の上に置かないでください。火災のおそれがあります。



注意 (CAUTION)

純正部品の使用

しんなどの部品は、必ず純正部品(指定された部品)を使用してください。予想しない事故が発生するおそれがあります。



異常・故障時使用禁止

油漏れやにおい、すすの発生、炎の色など異常や故障と思われるときは使用しないでください。事故の原因になります。緊急の場合でもあわてずにしんを下げて消火してください。(P.8ページ)



不良灯油使用禁止

変質灯油(持ち越した灯油など)、不純灯油(灯油以外の油・水・ごみが混入した灯油など)などの不良灯油を使用しないでください。異常燃焼やしんが下がらなくなるおそれがあります。



次の場所では使用しない

火災や予想しない事故の原因になります。

- 水平でない場所、不安定な場所
- 風のアたる場所、部屋の出入口や屋外
- ほこりや湿気の多い場所
- 不安定な物をのせた棚などの下
- 可燃性ガスの発生する場所またはたまる場所
- 温室、飼育室など人のいない場所
- 高地(標高800m以上)(P.8ページ)
- 理・美容室、クリーニング店などスプレーや化学薬品を使う場所
- マントルピースなどこんろが囲われる場所
- 直射日光のアたる場所



運搬するとき

こんろを運搬する場合は、油タンク内の灯油を抜いてください。運搬の途中で灯油がこぼれて周囲を汚すおそれがあります。



燃焼中移動禁止

火のついたまま持ち運ばないでください。やけどのおそれがあります。また、転倒すると火災になるおそれがあります。



高温部接触禁止

燃焼中や消火直後は、高温部(図の色の濃い部分)に手などふれないでください。

やかん、なべ、フライパンなどのとってが加熱されていることがありますので、やけどに注意してください。小さいお子様やからだの不自由な方のいるご家庭では、特に注意してください。



居室内給油禁止

給油は、必ず火の気のないところでおこなってください。火災のおそれがあります。



⚠ 注意 (CAUTION)

高温注意

上部から高温の熱気がでています。手や顔などを近づけないでください。
やけどのおそれがあります。



煮たき時炎の調節

煮たきをしているときには、必ず炎の調節をしてください。
なべやかんをのせると、内部に熱がこもって火力が余って赤火が出ることがあります。
長時間赤火が伸びたまま使用すると、火皿にすすが附着し、内部に熱がこもり異常燃焼することがあります。



大なべ禁止

反射板の外周からはみ出すような大きななべや鉄板をのせないでください。
内部に熱がこもったり、炎が横に伸びたりして異常燃焼のおそれがあります。
不安定なやかん、なべ、フライパンなどは使用しないでください。転倒するおそれがあります。



廃棄するとき

こんろを廃棄処分するときは、必ず油タンク内の灯油を給油ポンプなどで抜いて、電池ケースから乾電池を取りはずしてください。(P.9ページ)
灯油や乾電池が入ったまま廃棄するとリサイクルの際に思わぬ事故になるおそれがあります。



特殊用途には使用しない

食品・精密機器・美術品の保存や、動植物の飼育・栽培などには使用しないでください。



正常燃焼の確認

正常に燃焼していることを確認してください。
しんが上がりすぎたり、燃焼筒がずれているとすすけて異常燃焼したり、火災の原因になります。



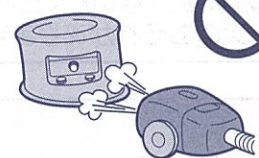
ほこりの除去

ほこりを、ときどき除去してください。
ごみ、ほこりなどがつまると、異常燃焼のおそれがあります。
燃焼部(しん案内筒)周辺や置台など、機器のほこりをときどき掃除してください。マッチ点火したとき、燃えかすをほこりが堆積したところに置くと、ほこりに引火して火災のおそれがあります。



掃除機の排気に注意

燃焼中に掃除機の排気などをあてないでください。
風があたると赤火が出たり、異常燃焼の原因になり危険です。



保管時にしていただくこと

長期間使用しないときまたは保管するときは、必ず灯油を抜いて、乾電池を取りはずしてください。
傾けたり、横倒しの状態では保管しないでください。
火災のおそれがあります。



日常のお手入れ時の注意

日常の点検・手入れは必ずおこなってください。
点検・手入れは、こんろが冷えてからおこなってください。
やけどのおそれがあります。
(P.9・10ページ)



お願い (NOTICE)

灯油の廃棄

灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

結露に注意

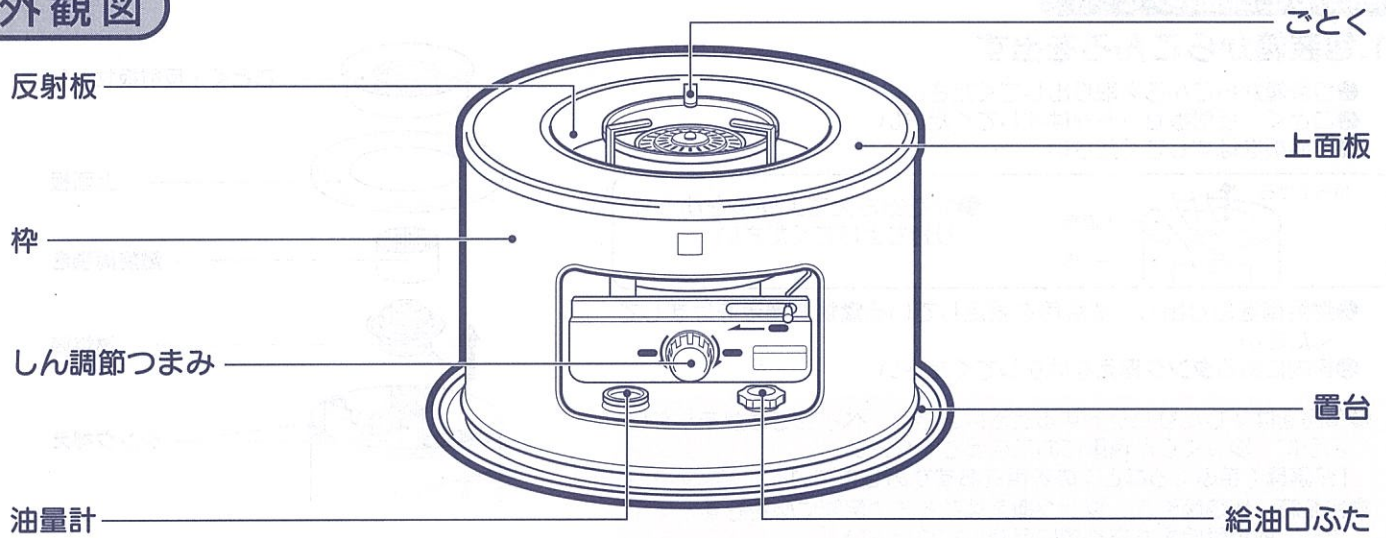
こんろは、室内で燃焼する製品のため、気密の高い部屋などでは、換気を十分にしてください。
換気をしないと、壁や天井が結露によってパソコンや電気機器等に障害が生じるおそれがあります。

2 使用する場所

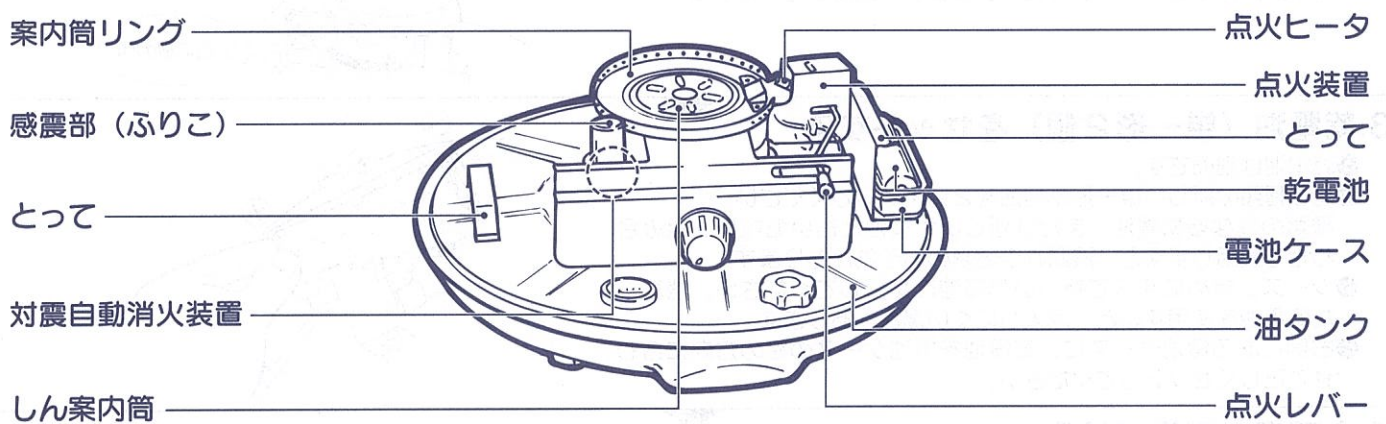
- こんろは水平で安定したところに置いてください。
- このこんろは屋内用です。屋外では使用しないでください。
- 部屋の出入口や人の通るところでは使用しないでください。

3 各部のなまえ

外観図

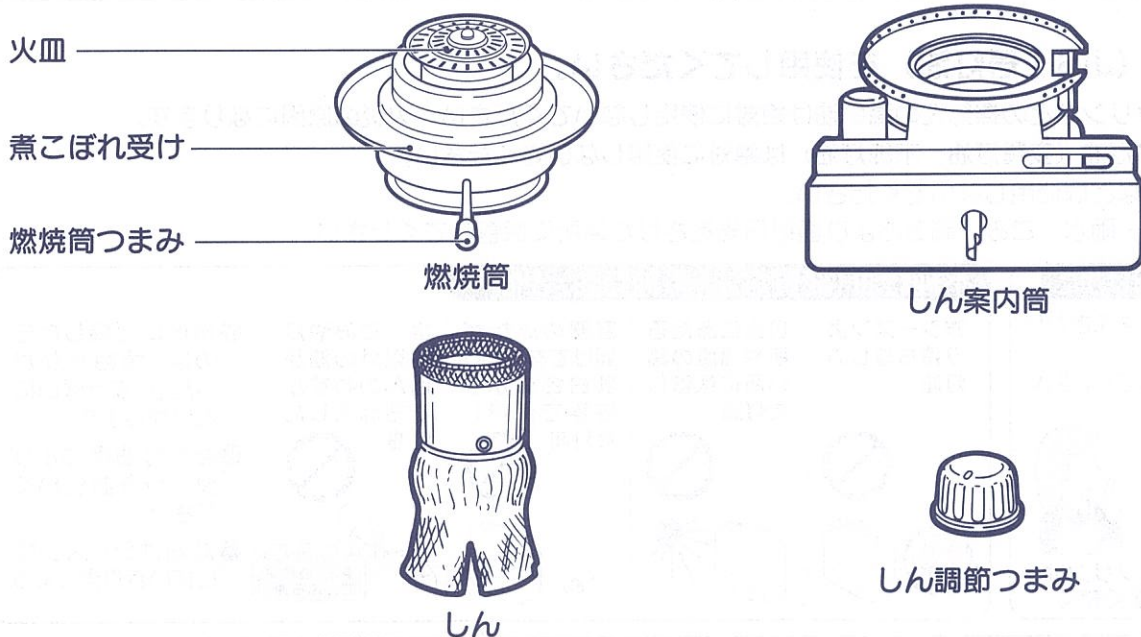


構造図



※単一形乾電池(別売)2個を使用します。

主な構成部品



4 使用前の準備

開こんと部品のセット

1. 包装箱からこんろを出す

- 包装箱からこんろを取り出してください。
- ごとく・反射板セットをはずしてください。
- 上面板をはずしてください。

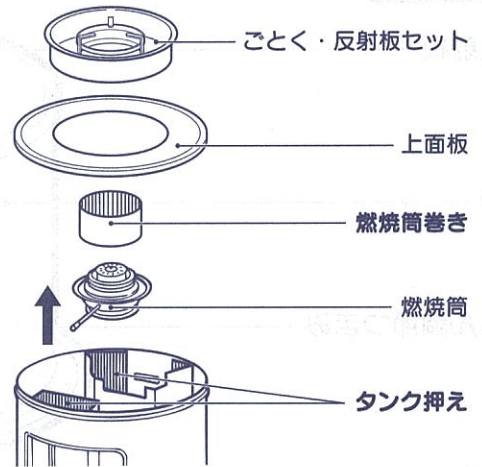


● 枠をおさえて上面板をゆっくり持ち上げてください。

- 燃烧筒を取り出し、燃烧筒を固定している燃烧筒巻きをはずしてください。
- 枠内にあるタンク押えをはずしてください。

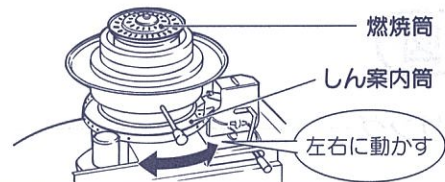
● 部品をはずしたりセットするときは、手をすべらせてけがをしないように、ゆっくりと慎重におこなってください。
【保護具（手ぶくろなど）の着用をおすすめします。】

- 包装箱、燃烧筒巻き、タンク押えはこんろの保管に必要です。また、取扱説明書も忘れずに保管してください。



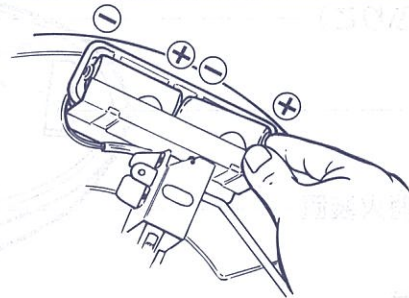
2. 燃烧筒のセットを確認する

- 燃烧筒をしん案内筒にのせ、燃烧筒つまみを左右に動かして、しん案内筒に正しくセットされていることを確認してください。



3. 乾電池（単一形2個）をセットする

- 乾電池は別売です。
- 同じ種類の新しい単一形乾電池を2個用意してください。種類の異なる乾電池、または新しい乾電池と古い乾電池を組み合わせると、液漏れや破裂のおそれがあります。
- シーズン始めにすべて新しい乾電池に交換してください。消耗した乾電池を使用すると、点火しにくい場合があります。
- 右側にある電池ケースに、乾電池を電池ケースの絵の方向に合わせて正しくセットしてください。



4. 上面板を取り付ける

- 上面板を枠の後部にしっかりと引っかけたあと、はずれないように、枠の手前側を親指で少し押し込みながら、ゆっくりかぶせてください。
- 最後に、ごとく・反射板セットを取り付けてください。



燃料

燃料は必ず灯油（JIS 1号灯油）を使用してください。

- **危険** ガソリンなどの揮発性の高い油は絶対に使用しないでください。火災の原因になります。
- **注意** 不良灯油（変質灯油、不純灯油）は絶対に使用しないでください。
- 添加剤や助燃剤などは使用しないでください。
- 灯油は必ず火気・雨水・こみ・高温および直射日光をさけた場所に保管してください。

灯油とガソリンの見分けかた

指先に燃料をつけ、息をふきかけます。
(火の気のない所でおこなってください。)



灯油はぬれたまま



ガソリンはすぐ乾く

不純灯油（変質灯油・不純灯油）とは…

昨シーズンより持ち越しの灯油



日光にあたる所や温度の高い所に保管した灯油



容器のふたが開けてあったり、乳白色のポリ容器で保管した灯油



水・こみや灯油以外の油がほんのわずかも混入した灯油






- 極度に変質したものは、黄色味がかったり、すっぱいにおいがします。
- 必ず灯油用のポリタンクをお使いください。
- 灯油はシーズン中に使いきりましょう。

4. 使用前の準備

■変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用すると、機器の故障の原因になります。

- 油の程度にもよりますが、1日～30日のご使用で、しんの先端にカーボンやタールが付着し、その部分がかたくなると同時に厚くなって、対震自動消火装置が作動しても、しんが下がらず消火しないことがあります。
- 点火しなかったり、点火に時間がかかったりします。
- 燃烧筒の火皿に赤熱むらが出たり、燃烧筒が暗くなり、激しいにおいがしたり、異常燃焼したりします。
- 油タンクに灯油が残っていても火力が小さくなったり、しんが下がらなくなったりします。
- 点火してから完全燃焼まで時間がかかります。
- 油タンクが腐食する原因になります。

■万一変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用したときは…

- 油タンク内の灯油を抜き、きれいな灯油で2～3回洗ってから使用してください。
(悪い油が残っていると再発します。)( 9ページ)
- しんの手入れをしてください。( 9ページ)
- しんの手入れをしても効果のないときはしんを交換してください。
しんの交換はお買い求めの販売店または、コロナお客様相談窓口にご連絡ください。( 12ページ)

ご注意

- 変質灯油、不純灯油などの不良灯油が原因で修理を依頼されたときは、保証期間中でも保証の対象外となります。
- 不良灯油の処理でお困りの場合は、灯油をお買い求めの販売店にご相談ください。

給油

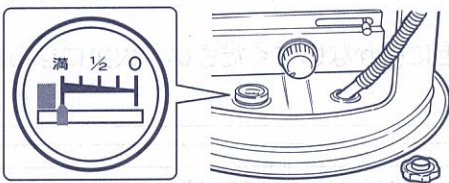
-  **警告** 給油は、しんを下げた消火し、必ず火が消えたことを確かめてからおこなってください。

給油の手順と注意

1. 給油口ふたを取りはずす

- 給油口ふたを左にまわして取りはずしてください。

2. 給油する



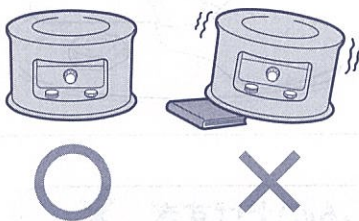
- 市販の給油ポンプなどを使用して、油量計を見ながら給油してください。
- 油量計が【満】をさしたら、給油をやめてください。
入れすぎると、あふれ出て火災の原因となります。

3. 給油口ふたを締める

- 給油口ふたは、確実に締めてください。
- こぼれた灯油はよくふきとってください。

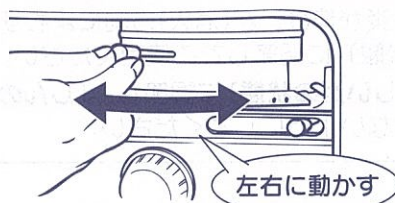
点火前の準備と確認

水平な場所に設置



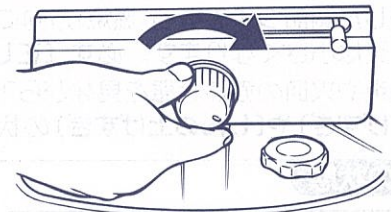
- こんろは、水平で安定のよい床の上に設置してください。
- 傾斜した場所や振動の激しい場所で使用すると、異常燃焼や対震自動消火装置の誤作動の原因になります。

燃烧筒のセットを確認



- 燃烧筒のつまみを持って左右に2～3回動かし、しん案内筒に正しくセットされているか(燃烧筒がしんの上ののっていないか)を確かめてください。
- 燃烧筒がしん案内筒に正しくセットされていなかったり、燃烧筒がずれてしんを踏んでいると、すすが出て異常燃焼の原因になります。

対震自動消火装置のセット



- 通常の点火操作(しん調節つまみを右(燃焼)方向にとまるまでまわす)により自動的にセットされます。
- しん調節つまみをまわすとき「カチカチ」と音がして重いのは、対震自動消火装置が自動的にセットされているためです。
- 一度セットされると、しん上下は軽くなり、音もなくなります。

5 使用方法

点 火

電池点火のしかた

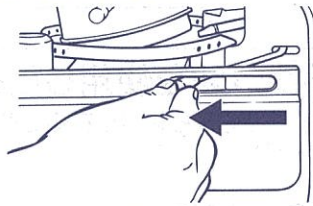
1. しん調節つまみを右(燃焼)方向へまわす

- 右(燃焼)方向にまわしきって、しんをいっぱい上げてください。



2. 点火レバーを左(矢印)方向に引く

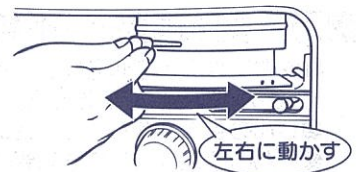
- ゆっくりとまるまで引いてください。燃焼筒が傾き点火します。
- 点火を確認したら、点火レバーからゆっくり指をはなしてください。



- 点火ヒータ付近から白煙が上がるだけで点火しない場合は、点火レバーを少し戻すと点火します。(逆に強く押しつけると点火しにくくなります。)
- 点火したことを確認したあとも点火操作をそのまま続けていると、点火ヒータのフィラメントが断線したり破損の原因になります。

3. 燃焼筒のセットを確認する

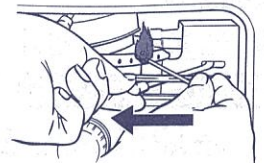
- 燃焼筒のつまみを持って、左右に2~3回動かし、しん案内筒に正しくセットされているか(燃焼筒がしんの上ののっていないか)を確かめてください。



- **警告** 燃焼筒が正しくセットされていないと、最初から赤火ですすけて異常燃焼します。正しくセットしてください。

点火用ライターやマッチでの点火のしかた (万一点火ヒータが使えないとき)

1. しん調節つまみを右(燃焼)方向にまわしきって、しんをいっぱい上げてください。
2. 点火レバーを左(矢印)方向に引いて燃焼筒を傾け、点火用ライターやマッチで点火したら、点火レバーからゆっくり指をはなしてください。
3. 燃焼筒つまみを持って左右に2~3回動かし、燃焼筒のセット具合を確かめてください。



- **警告** 燃焼筒が正しくセットされていないと、最初から赤火ですすけて異常燃焼し、火災になるおそれがあります。正しくセットしてください。
- **注意** マッチ点火の際は、マッチの燃えかすをしん付近や置台の上に置かないでください。火災になるおそれがあります。

- 初めてご使用になるときや、しんの手入れ、しんの交換、から焼きなどをしたときは、給油後20分以上放置して、しんに十分灯油がしみこむまでおまちください。しんに十分灯油がしみこまないうちに点火すると、吸い上げ不足のため燃焼筒火皿の赤熱不足が続いたり、しんをいためる原因になります。このときは、いったん消火し、20分以上放置後点火してください。
- 初めてご使用になるとき、点火後しばらく多少のにおいがしますが、これは器具に付着している油などが焼けるときのもので異常ではありません。

炎の調節 (火力調節)

炎の調節はしん調節つまみでおこないます。

- しん調節つまみを右(燃焼)方向にまわすと炎が伸び、左(消火)方向にまわすと炎は小さくなります。必ず**正しい炎の状態**に調節してご使用ください。
- 炎や火皿の赤熱状態を見ながら下図の**正しい炎の状態**に調節し、**しんの下げすぎ**や**しんの上げすぎ**の状態にならないようにしてください。



炎の状態

しんの下げすぎ **X**

火皿の赤熱が不足している。



正しい炎の状態 **O**

炎が火皿の高さまで伸び、火皿の外周全体が赤熱している。



しんの上げすぎ **X**

赤火が火皿より出ている。



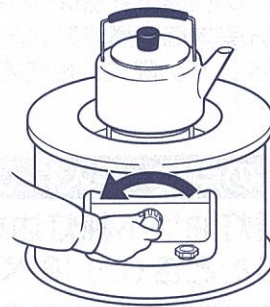
5. 使用方法

- 点火後15～20分たって、部分的な炎の伸びや、火皿の赤熱むらができるときは燃焼筒つまみを持って左右に軽く2～3回動かしてください。それでも炎が伸びてきたら、しん調節つまみをゆっくり左(消火)方向にまわして**【正しい炎の状態】**に調節してご使用ください。
- 点火後そのまま放っておくと**【しんの上げすぎ】**のように炎が伸びて、すすや一酸化炭素が発生したり、内部に熱がこもって異常燃焼することがあります。また、**【しんの下げすぎ】**のように火皿の赤熱が不足している状態で燃焼すると、においや一酸化炭素が発生するばかりでなく、しんにカーボンが付着し、しん上下も重くなります。このようなときはしんの手入れをしてください。(P.9ページ)
- しんを下げた状態から急にしんを上げると、炎が大きく上がることがありますので、ゆっくりしんを上げるようにしてください。
- 燃焼中は、点火レバーに触れないでください。操作すると炎が上がります。また、点火ヒータのフィラメントが変形したり断線したりすることがあります。
- 換気扇・超音波加湿器を使用すると、炎がピンク色になることがありますが異常ではありません。
- 高地(標高の高い所)では、空気がうすく、不完全燃焼になりやすいため、必ず**最大火力**でご使用ください。

煮たぎするときの注意

「なべ」や「やかん」などをのせて10～20分くらいいたら、赤火が出ないように炎の調節をし、そのあともときどき炎の状態をみてください。

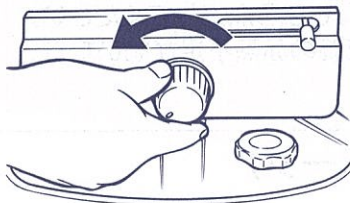
- **【注意】** 「なべ」や「やかん」などをのせたときには、必ず炎の調節をしてください。
- **【注意】** 反射板の外周からはみ出すような大きななべ(直径24cm以下の調理器具を使用してください)や鉄板をのせないでください。内部に熱がこもったり、炎が横に伸びたりして、異常燃焼のおそれがあります。また、不安定なやかん、なべ、フライパンなどをのせないでください。転倒するおそれがあります。



- 最大火力のまま使用すると、炎の出るところがなべなどの底で制限をうけ、内部に熱がこもり、火力が余って赤火が出ることがあります。長時間赤火が伸びたまま使用すると、火皿にすすが付着し、内部に熱がこもり、異常燃焼することがあります。火皿にすすが付着した場合は、ブラシなどですすを取りのぞいてください。
- 湯こぼれすると、炎が水蒸気にあおられて、一時的に炎が大きくなったり、なべがすすけたりします。また、なべなどの底についている水は、必ずふき取ってからこんろにのせてください。
- なべややかんなどは、上面板にのせないでください。上面板に傷がついたり、変色することがあります。

消火

1. しん調節つまみを左(消火)方向へまわす



- ゆっくりと左(消火)方向にとまるまでまわして、しんを下げて消火してください。
- こんろをゆさぶったり、傾けたりして消火しないでください。
- 3～5分で消火します。
- しん調節つまみは約1回転しかまわりませんので、それ以上むりにまわさないでください。

2. 消火の確認をする

- 必ず消火の確認をしてください。

対震自動消火装置が作動した場合は…

- しん調節つまみをまわして消火したときとくらべ、消火時の臭気が強くなります。また、急にしんが下がるため、火皿よりも上方に炎が一時的に伸びます。
- 変質灯油などでしんの上部にタールなどが多く付着していると、対震自動消火装置が作動しても、しんが完全に下がりきらないで消火しないことがあります。必ずしん調節つまみをまわして消火の確認をしてください。このようなときはしんの手入れをしてください。(P.9ページ)

消火後再点火するときは…

- 消火後すぐに再点火すると燃焼筒の温度が高くて、点火しなかったり、においがします。また、点火ヒータのフィラメントが断線する場合があります。燃焼筒が冷えるまで、6～7分くらい待ってから点火してください。

6 対震自動消火装置

強い地震や振動、衝撃を受けたときは対震自動消火装置が作動して自動的に消火します。しん調節つまみを右（燃烧）方向にとまるまでまわしてしんを上げると、自動的に対震自動消火装置はセットされます。（☞ 6 ページ）

- 対震自動消火装置は、JIS に定められた 100~200 ガルの振動により作動するように調整してあります。したがってご使用中における弱い日常的な振動、傾斜では作動しません。
- 変質灯油などでしんの上部にタールなどが多く付着していると、対震自動消火装置が作動してもしんが完全に下がりきらないで消火しないことがあります。必ずしん調節つまみをまわして消火の確認をしてください。このようなときはしんの手入れをしてください。（☞ 9 ページ）
- 地震によって作動した場合は、周囲の可燃物、こんろの損傷、灯油のあふれなど異常がないことを確認したあと、再点火してください。

7 日常の点検・手入れ

点検・手入れは、消火後こんろが十分冷えてからおこなってください。

- 対震自動消火装置を分解したり、油でふいたりしないでください。
- しんの標準出寸法は5mmです。切ったり、長く引き出したりしないでください。
- しん案内筒・燃燒筒は変形させないでください。
- お手入れの際に、燃燒筒をはずしたり本体を分解するときは、保護具などを着用してケガのないよう注意してください。

しんの点検・手入れ（から焼き）〔月1回〕

変質灯油や不純灯油などの不良灯油でしんの上部にカーボンやタールが付着し、不具合が生じたとき（☞ 6 ページ）は、しんの手入れ（から焼き）をしてください。

しんの手入れ（から焼き）のしかた

しんの手入れをするときは、風のあたらない場所でおこなってください。風があたると赤火が出たり、異常燃烧の原因になり危険です。また、しんの手入れ中にはおいがしますので十分換気をしてください。

1. 油タンクの灯油を抜く
2. 点火操作をし、正しい炎の状態で燃烧させる（☞ 7・8 ページ）
3. そのまま灯油がなくなって、火力が小さくなるまで放置する
4. 火力が小さくなったらしんをいっぱい上げ、消火するまで燃烧させる

- しんがかたくなっているときは、しんの手入れを2~3回おこなってください。
- しんの手入れ後のご使用は、給油後20分以上待ってしんに十分灯油がしみこんでから点火してください。しんに十分灯油がしみこまないうちに点火すると、吸い上げ不足のため燃燒筒の赤熱不足が続いたり、しんをいためる原因になります。

■次のようなときは新しいしんと交換してください。（☞ 12 ページ）

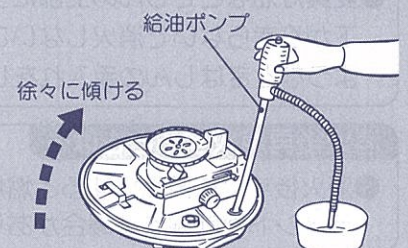
- しんの手入れをおこなってもカーボンやタールがとれず、効果がないとき。
- しんが水を含んでしまい、しんの上下操作が重くなったとき。
- しんの上部分が消耗して、うすくなったり短くなったり、凹凸になっているとき。

■油タンク内の変質灯油や不純灯油などの不良灯油を取り除くときは…

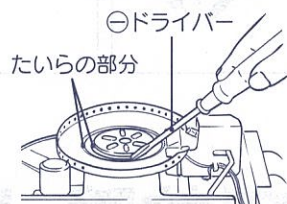
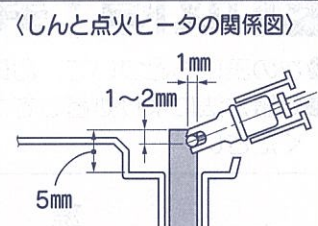
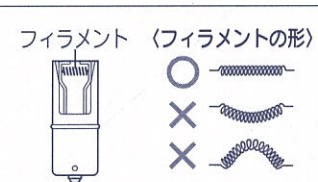
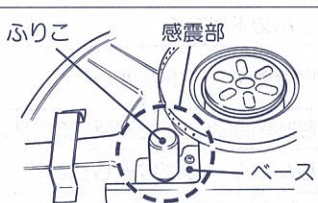
処置方法（火の気のないところでおこなってください。）

1. 感震部のふりこを押して、対震自動消火装置を作動させてください。
2. 油タンク内の灯油を図のようにして抜き取り、きれいな灯油で2~3回洗ってください。
3. ごみなどが入っていたら取り除いてください。
4. 良質の灯油を、油量計の針が【満】をさすまで給油してください。

しんの手入れもあわせておこなってください。




7. 日常の点検・手入れ

	点検箇所	点検する内容	処置方法
使用ごと	置台 油タンク	●油漏れ・油のたまりや油のにじみがないか。	●油のたまりや、油のにじみはふきとる。 ●油漏れのある場合は、お買い求めの販売店またはコロナサービスセンターに修理を依頼してください。
	外観 上面板、枠、反射板、置台など	●ほこりや汚れがないか。	●やわらかい布でふきとる。 (ベンジン、シンナー、クレンザーなどでふかないでください。)
	こんろの周囲	●可燃物がないか。	●周囲を整理・清掃し、可燃物は取り除く。
	乾電池	●点火ヒータの赤熱が弱くないか。点火しにくくないか。	●新しい乾電池と交換する。
月1回	しん案内筒	●たいらの部分にすすや燃えかすなどがたまっていないか。 〔燃えかすなどがたまると燃焼筒のすわりを悪くして、燃焼を阻害することがあります。〕	●燃焼筒をはずし、⊖ドライバーの先で燃えかすなどを取り除く。 ●しんの先端をしん案内筒のたいらの部分に合わせ、燃えかすがみぞに落ちないように注意してください。 
	点火ヒータ	●点火ヒータの位置（しんとの間隔）は正しいか。 〔フィラメントが、しんに対してちょうど良い位置にないと点火しにくくなります。〕	●しんの出寸法が5mmのときに点火ヒータの位置がちょうど良いところになります。 ●点火ヒータの位置の調整はお買い求めの販売店に依頼してください。 
	燃焼筒	●フィラメントの変形、断線はないか。	●変形はマッチ棒などでまっすぐになおす。 ●変形がなおらないものや、断線したものは取り替える。 (12 ページ) 
月2回	対震自動消火装置	〔作動具合〕 ●しん調節つまみを右(燃焼)方向へまわしてしんを上げ、置台の左側を前後に強く動かしたとき、対震自動消火装置が作動して、しんが最後まで確実に下がるか。	●感震部、作動部を点検する。
2カ月に1回		〔感震部(ふりこ、ベース)〕 ●ごみ、異物、ほこりなどが付着していないか。	●やわらかい布で、ごみ、異物、ほこりなどをきれいにふきとる。 
月1回		〔作動部(しん)〕 ●しんの上下はスムーズか。 ●タールの付着はないか。	●しんの手入れをする。(9 ページ) ●効果がない場合は、しんを交換する。(12 ページ) (お買い求めの販売店または、お近くのコロナお客様ご相談窓口にご相談ください。)
しん交換時	しん案内筒パッキン	●のびたり、切れたり、傷んでひびが入っていないか。	●パッキンに、のび、切れ、ひびなどが入っていた場合は交換する。 (お買い求めの販売店または、お近くのコロナお客様ご相談窓口にご相談ください。)

8 定期点検

長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。

2年に1回程度、シーズン終了後などにお買い求めの販売店または、修理資格者〔一般財団法人 日本石油燃焼機器保守協会 (TEL 03-3499-2928) でおこなう技術管理講習会修了者 (石油機器技術管理士) など〕のいる店などに点検依頼されることをおすすめします。(有料)

愛情点検	長年ご使用の石油こんろの点検をぜひ!	ご使用中止
	<p>こんな症状はありませんか</p> <ul style="list-style-type: none"> ●油もれがする。 ●炎が不安定でススや黒煙が出る。 ●器具を強くゆすっても炎が消えない。 ●焦げるようなにおいや目がチカチカする。 ●その他の異常や故障がある。 	<p>故障や事故の防止のため必ずお買い求めの販売店にご連絡ください。</p> <p>点検・修理についてのご費用など詳しいことはお買い求めの販売店にご相談ください。</p>

9 故障・異常の見分け方と処置方法

- 次の表にもとづいて、お確かめください。
- 処置方法により処置しても良くならないときは、お買い求めの販売店またはお近くのコロナお客様相談窓口にご相談ください。

原因	現象											処置方法	参照ページ	
	点火しない	火皿が赤熱しない	炎がかたよる	においがする	赤火やすがえる	炎が大きくならない	しん上下操作が重い	しんが下がらない	しんがすぐ下がってしまう	消火しない	消火する			油タンクに灯油が入っているのに消火する
水、変質灯油や不純灯油などの不良灯油が混入している	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	油タンク内の水、灯油を抜き、きれいな灯油で洗い、しんも交換する	9・12
しんに十分灯油がしみこまないうちに点火した	●	●		●		●							給油後はしんを下げ20分以上待ち、しんに十分灯油がしみこんでから点火する	7
しんの上げすぎ			●	●	●								正しい炎の状態になるようにしんを調節する	7
しんの下げすぎ		●		●		●							燃烧筒つまみを左右に動かしてセットしなおす	6
燃烧筒のセットが悪い			●	●	●								燃烧筒つまみを左右に動かしてセットしなおす	6
長時間閉め切った部屋で使用している		●		●		●							窓をあけ、部屋の換気をする	1
しんにタールが付着している	●	●	●	●		●	●	●		●	●	●	「しんの手入れ」をする	9
しんの取り付けがしん押えにピッタリしていない								●	●				正しく取り付けなおす (お買い求めの販売店または、お近くのコロナお客様相談窓口にご相談ください。)	-
点火ヒータのフィラメントの変形または断線	●												変形をなおすか交換する	10・12
乾電池が正しく入っていないまたは、消耗している	●												⊕⊖ を正しく入れる 新しい乾電池と交換する	5
燃烧筒の変形や破損		●	●	●	●	●							新しい部品と交換する	12
風または、振動を受けている		●	●	●	●	●			●				風の当たらない場所で使用する 振動を受けないようにする	3
しん上下機構が故障している	●						●	●	●	●			お買い求めの販売店またはコロナサービスセンターに依頼してすぐ修理する	-
対震自動消火装置が故障している									●	●				
しんの上に燃烧筒がのっている			●	●	●								しん上下操作をくりかえし、燃烧筒つまみを左右に動かしてセットしなおす。	7

10 部品交換のしかた

■ 部品交換のときの注意

注意 不完全な修理、調整は危険ですので、部品の交換、調整が必要な場合には、お買い求めの販売店または、修理資格者〔一般財団法人 日本石油燃焼機器保守協会でおこなう技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)など〕のいる販売店にご相談ください。

部品交換は **コロナ純正部品** とご指定ください。

しんの交換

- しんの交換は、お買い求めの販売店または、お近くのコロナお客様ご相談窓口へ依頼されることをおすすめします。
- しんは必ず検査に合格または認証された「**コロナ純正しん KT-10**」(右のマーク付)をご使用ください。
器具に適合しないしんや、粗悪なしんを使用しますと、性能を十分発揮できないばかりでなく火災や中毒の原因になります。
- しんの交換方法は、替しんに同こんの「石油燃焼機器用しん取扱説明書」にしたがってください。



燃焼筒の交換

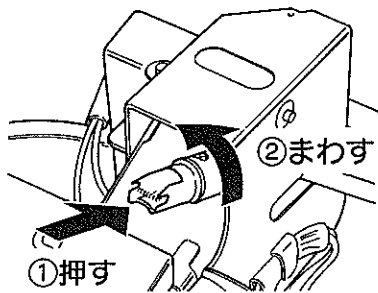
燃焼筒が変形したときは、お買い求めの販売店または、お近くのコロナお客様ご相談窓口にご相談ください。

点火ヒータの交換

次の順序で交換してください。

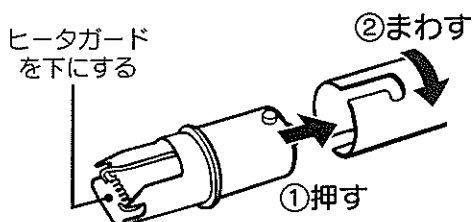
1. ごとく・反射板セット、燃焼筒をはずして、乾電池を取り出す (👉 5 ページ)

2. 点火ヒータをはずす



- 古い点火ヒータを押しながら左にまわしてソケットからはずしてください。

3. 新しい点火ヒータを取り付ける



- 点火ヒータのヒータガードを下側にして、ソケットに取り付けてください。

サロンヒーター梱包方法

【ご注意】

返却の際は必ず残った灯油を処分して頂き、新聞紙などで簡単に拭きとってから返却してください。万が一、灯油を処分せずに返却されて運送中に灯油がこぼれ、他の商品が汚れてしまった場合、佐川急便からお客様へ損害賠償をご請求させて頂く場合がございます。ご注意ください。

	<p>1. 2本の PP バンドを下に敷いて、箱を載せてください。</p>
	<p>2. サロンヒーターを箱に入れ、上面板(リング状の銀色のカバー)を持ち上げ、燃焼筒のまわりにダンボールの燃焼筒巻きをセットしてください。 ※電池を入れたままの状態での梱包してください。</p>
	<p>3. 上面板を戻します。</p>
	<p>4. 付属のダンボール板を図のように載せてください。</p>



5. その上に取扱説明書を載せてください。



6. 箱の蓋を閉じて、留め具を使って2本のPPバンドをかけてください。



* 出荷伝票下のビニール封筒の中の返却用着払い伝票を貼り付け位置に貼って返してください。

梱包時PPバンドの使用方法

①



輪をつくる。

②



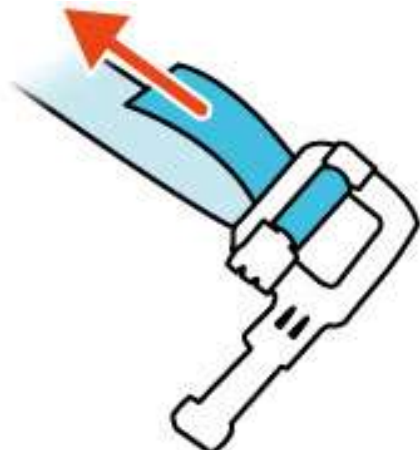
つくった輪をストッパーに通す。

③



1本の足を輪の中に折りたたむ。

④



バンドを矢印の方向に引っ張る。

⑤



荷物に回したもう片方のバンドも同様に通す。

⑥



ひもを両端に引っ張り、しっかり締める。